

歴史と文化が香る

宇治茶と
京都やましろ



宇治茶の歴史と文化

喫茶文化

世界的に喫茶文化は、イギリスの紅茶文化(発酵茶)や中国のウーロン茶など半発酵茶文化、日本の緑茶文化に大別されます。いずれも中国を発祥とし、伝来された各々の国の嗜好性に基づき、品質改善や飲用法が工夫され、多様な喫茶文化を形成するに至りました。

紅茶は、17世紀中頃にはイギリスにも伝えられ18世紀には国民的飲料となりました。紅茶品種の生葉にはカテキン類が多く含まれ、発酵により果実や花香などの甘い香りが醸成され、心地よい渋みを基本とした味を呈するのが特徴です。イギリスでは、紅茶にミルクや砂糖を加えたり着香をしたりして、様々なバリエーションで飲用され、設えも含めて、多様な紅茶文化が形成されました。

緑茶は、12世紀末に日本に抹茶が伝えられ、宇治における覆下栽培の発明により、うま味が強く濃緑色の抹茶に洗練されていきました。中国ではその後、抹茶が衰退することになります。抹茶の生産、消費は時の権力者などの支援を受けながら、武士階級を中心に茶道文化として隆盛しました。一方煎茶は、18世紀に宇治田原で製法が開発され、若葉を思わせる爽やかな香気と、渋みや苦みに加えて、アミノ酸によるうま味を呈することが特徴です。上層階級で飲用された抹茶に対して、18世紀後半には、文人や一般庶民の喫茶文化として広く普及しました。

歴史

宇治茶発祥(平安～鎌倉時代)

建久2年(1191)、中国から帰国した栄西禅師は持ち帰ったお茶の種を京都桐尾・高山寺の明恵上人に贈りました。明恵はこの茶種を播いて茶園をつくり、そこで採った種子を国内各地に広めました。この時伝えられた地は、仁和寺、醍醐寺、奈良の般若寺、生室寺のほか、宇治、大和、伊勢、駿河、武蔵です。宇治黄檗山萬福寺の山門前にある「駒蹄影園碑」は、明恵によって初めて宇治にお茶がもたらされた逸話を伝えるものです。

天下茶へ(室町時代)

室町三代将軍・義満は宇治茶の栽培を奨励し、新たに特別な茶園を拓かせました。それが「宇治七名園」と呼ばれる将軍家や管領家専属の茶園です。この当時、桐尾の茶が「本茶」とされていましたが、宇治の茶匠たちのたゆまぬ研鑽により、新芽が生育する時期に太陽光を遮る「覆下栽培」が発明され、味・栽培量とも本茶をしのぐようになり、後に宇治茶が桐尾茶に代わり「本茶」と呼ばれるようになりました。

茶の湯文化(安土桃山時代)

室町時代に流行した「闘茶」は、各産地のお茶の中から本茶(桐尾茶)を飲み当てるもので、多分に遊興の色彩の強いものでした。村田珠光はこのような喫茶法をあらため、武野紹鷗を経た後、千利休によって「茶道」が完成されます。信長、秀吉という時の権力者の茶頭を務めた利休は度々宇治を訪れ、新茶の吟味や茶会を催したといわれ、上林家を核に宇治茶業界の統制を進めました。利休亡き後も古田織部、小堀遠州らによって侘び茶は伝えられ、宇治茶は「天下茶」の地位を確立しました。

将軍の茶と庶民の茶(江戸時代～明治)

江戸時代になると宇治茶の名声はますます広がり、宇治の茶業者たちは「御茶師三仲ヶ間」を組織し、禁裏・将軍家に献上するお茶を一手に栽培します。「茶壺におわれて戸ピッشان」という童謡で知られるお茶壺道中は、宇治のお茶を江戸の将軍に納める行列を謡ったものです。一方、元文3年(1738)には現在の宇治田原町の永谷宗円が「宇治製法(蒸製煎茶製法)」という今の緑茶にあたる製茶法を考案したといわれ、宇治茶は一気に庶民の間に広がっていきました。また、この蒸製煎茶を用いた売茶翁の活躍により、文人たちの間に煎茶道が広がりました。宇治茶は、今の京都・滋賀・奈良・三重で栽培され、山城(京都)で仕上げ加工され全国へと出荷されていました。その後、幕末の開国に伴い横浜港や神戸港が開港されるとともに、明治新政府の殖産興業政策により茶の生産・輸出が奨励され、宇治茶も海外に向けて輸出されていました。

栽培

気候・地勢

チャは亜熱帯作物ですが、日本のお茶の産地といわれるところは、概ね温暖な気候でありながら昼夜の気温差が大きい、河川流域や山間地に分布します。川から発生する川霧や山間傾斜地に発生する山霧は、茶の芽の大敵である霜を防ぐとともに、新芽を柔らかく保ち、高い品質のお茶を作ると言われています。昔から茶の名産地で知られる地域には宇治川、木津川、由良川などの河川が流れ、そこで深く立ちこめる川霧や、その流域の山間地に立ちのぼる山霧が名茶を育ててきたと言えます。

栽培・製茶

宇治茶栽培の特徴のひとつは「覆下栽培」といわれ、茶の新芽が育つ初夏の頃、茶園にヨシとワラで覆いを掛け、陽光を遮って若芽をやわらかく育てるとともに霜害を防ぎ、「覆い香」といわれる特有の香気を茶にもたせるものです。この栽培法は室町時代の後期に、宇治の茶匠たちが考え出したものといわれています。

また、宇治田原の永谷宗円が発明したといわれる蒸製煎茶製法による煎茶は、新芽を蒸して揉むことにより、爽快な香りと引き締まった味を持つ新たな商品として全国に普及し、その製茶法も宇治製法として全国の茶産地に普及しました。

さらに、覆下茶園から摘採した茶葉を宇治小倉の茶師の焙炉場で攪拌しているうちに偶然生みだされたのが玉露で、高級宇治茶の中心的茶種となりました。

茶畑景観

宇治市

宇治七名園「奥の山園」

宇治茶が全国的に有名になった室町時代。このような時代を反映して、三代将軍足利義満が、後世「宇治七名園」と呼ばれる七つの茶園を宇治につくりました。「森、祝、宇文字、川下、奥ノ山、朝日につづく琵琶とこそ知れ」と歌にも詠まれています。七つの茶園のうち、現存するのは「奥の山園」のみで、今でも宇治茶が生産されています。



城陽市

河川敷の茶園

城陽市は、高級なてん茶の産地です。木津川の河川敷や河川沿いでは、被覆棚を備えた茶園が広がっています。

※てん茶(抹茶の原料)

棚など覆いをしている茶園で、日光の直射をさけて育てた新芽を蒸した後、もまずに乾燥させてつくります。香り豊かで、まったりとしたうまみがあります。



宇治田原町

大規模集団茶園

「宇治茶」の中心的産地の一角を占める宇治田原町には、集落背後の丘陵地を中心に茶園が作られ、近年は生産の効率化を図るために大規模集団茶園の整備が進められています。岩山の「大山(おおやま)」や湯屋谷の「大福(おおぶく)」の集団茶園の中に立つと、まるで一面の茶園に囲まれたような別世界が広がります。



木津川市

里山に広がる茶畑

木津川市の主なお茶の生産地は、市北部の山城町、東部の加茂町地域となっています。加茂町域では、山城地域南部の特徴的な茶畑景観である、山裾から、丘陵頂部近くまで広がる茶畑で、起伏に富んだ地形を利用し、営まれています。茶畑からは、懐かしさを感じられる里山、史跡恭仁宮、雄大な木津川の流れが眼下に広がり、文化的景観となっています。



和東町

原風景「茶源郷」

和東町は、標高や寒暖差等の地形及び気象条件等に加え、農家の方が大事に育てることにより、味のあるおいしいお茶ができています。また、お茶の輸出が盛んな時代から不況の時代を乗り越え現在に至るまで、お茶に取り組んできた歴史も深く、昔の方が鋤1本で開墾したとされる茶畑は、急傾斜地にあり、山と茶畑、農家住宅がマッチングし、素晴らしい景観をつくっています。



南山城村

秘境の茶畑

南山城村の茶畑の多くは、人里離れた山の中にあるため、たどり着くためには木々に囲まれた農道を進むことになります。「まだか、まだか」と待ちわびながら、細く長い道を突き進み、ようやく木々の遮りが無くなる場所に着いた瞬間、目の前に広大な茶畑が現れます。

一畝ごとに美しく植栽されている茶木が形作るその風景は、まるで幾何学模様の絵画のようで、特に、初夏の風薫る季節には、太陽の光を浴びた茶葉がきらきらと輝き、感嘆の吐息が漏れることでしょう。



お茶の文化が息づいている山城地域

宇治市

お茶と源氏物語のまち「宇治」

「宇治茶」の本場「宇治市」。お茶の名前にまちの名前がついています。宇治茶は、鎌倉時代の初め頃に梅尾高山寺の明恵上人により宇治に伝えられたのが始まりとされています。宇治川の朝霧などの自然と風土、覆下園に代表される茶づくりの技術に培われ、宇治茶は歴史のなかで育まれてきました。

また、紫式部によって書かれた『源氏物語』の最終の舞台となった宇治には、往時を偲ばせる古跡が点在し、訪れる人を遠く王朝文学の世界へと誘ってくれます。

さわやかな香りに包まれながら、宇治散策を楽しみませんか。



城陽市

緑と太陽、やすらぎのまち 城陽市

城陽市は昭和47年5月、府下で8番目の市として誕生しました。城陽市は京都から五里、奈良から五里に位置し、古い歴史を物語る古墳や史跡、社寺が南山城地域の特色あるたたずまいを見せています。豊富な地下水を利用した花しょうぶやかきつばた、カラーなどの湧水花き類の栽培、京都府一の面積を誇る青谷梅林、寺田いも(さつまいも)、いちじく、木津川の浜で栽培される茶、そして全国一の生産量を誇る金銀糸など各種の特産品をはぐくんできたまちです。

知名度の高い宇治茶の生産地・山城地域の中でも、城陽市は抹茶の原料となるてん茶の生産地であり、農林水産大臣賞を受賞した農家もあるなど、高い品質のお茶づくりが行われています。

毎年10月には、多くの人々に城陽産のお茶を知ってもらうとともに、お茶の持つ文化性などを広めるため、「城陽茶まつり」が荒見神社で開催されています。



八幡市

歴史と文化に育まれた田園が広がる八幡市

京都府南西部、木津川・宇治川・桂川が淀川となる三川合流地点に位置する八幡市は、貞観2年(860年)の石清水八幡宮の遷座以来、その門前町として日本史に残る多くの歴史を紡いできました。昭和47年(1972年)に男山団地の入居が始まり、爆発的な人口増加を遂げ、昭和52年(1977年)に市制を施行。都市機能を有した歴史文化と田園が調和したまちづくりに取り組んでいます。

石清水八幡宮には珍しい献茶講が続いており、境内の雄徳山茶園の茶葉はお祭りや振る舞い茶などで使用されています。



京田辺市

一休さんと玉露のまち 京田辺市

京田辺市は、京都・大阪・奈良を結ぶ三角形のほぼ中央にあり、古くから開け、万葉の時代からの遺跡や文化財も多く、継体天皇が都を置いた「筒城の宮」やとんちの一休さんが晩年を過ごされた一休寺などがあります。また、同志社大学なども立地し、「関西文化学術研究都市」の一翼も担う文化の薫るまちとして発展し続けています。京田辺のお茶は、木津川の朝霧に包まれて育った茶葉を手で丁寧に摘んだ高級玉露です。



木津川市

茶問屋ストリート

幕末の神戸港開港により、山城のお茶は上狛浜から木津川・淀川を経て船で神戸に運ばれ、諸外国に輸出されました。ここ上狛地区では多くの茶問屋が軒を連ね、明治・大正・昭和と賑わっていました。現在では問屋の数も少なくなりましたが、この付近を歩くとほのかにお茶の香りが漂い、お茶の町・山城を感じさせてくれます。



井手町

自然とロマンがあふれるまち 井手町

橘氏のふるさとであり、玉川に咲く山吹は、古来から多くの文人墨客の訪れる所として、浮世絵や詩歌を今に伝えていています。近年は、玉川堤の桜並木や地藏禅院のしだれ桜が有名で、春には多くの観光客で賑わいます。

町内には、大正池や万灯呂山展望台、龍王の滝などがあり、味覚の里として柿・みかん等の収穫体験が出来る観光農園もあります。

小町伝説や「太平記」の情景を残す井手の里は、自然とロマンあふれる町でもあります。井手町では、山間に広がる茶園でお茶が生産されています。また、みどり農園では山背古道お茶探検隊による手作りのお茶「マイ茶」を楽しむ活動が毎月第3日曜日に行われています。毎年5月には、お茶つみ体験を実施しています。



宇治田原町

日本緑茶発祥の地 宇治田原

宇治田原は日本の茶処・宇治を支えるお茶の一大生産地です。昼夜の激しい気温差や宇治川の清い流れなど茶生産に適した気候風土を生かし、茶農家の努力により良質茶が栽培されています。鎌倉時代に大福谷で茶畑が拓かれ、お茶の味が優れていたため早くから中宮や将軍に献上されるようになり、江戸期に湯屋谷の茶農であった永谷宗円が現在の美しい緑色の煎茶づくりの原点となる「蒸製煎茶製法」をみいだすなど、お茶にまつわる歴史と伝統が息づいています。



和束町

茶源郷が育てたほんまもんのお茶「和束茶」

和束町は、聖武天皇によって造営された恭仁京と紫香楽離宮を結ぶ街道として開け、禁裏御料地として奈良東大寺等の寺社建築用材の用達地として栄えました。町の中央部を和束川が流れ、標高686.7mの鷲峰山を最高峰に町のどこからでも茶畑が望める長閑なまちです。和束町は気象的、土壌的に恵まれた条件を生かし、古くから香りの高い高級煎茶を栽培し、現在も宇治茶の45%以上を生産する宇治茶の生産地です。和束茶の味と香りは、町の誇りとなっています。

煎茶の郷「和束」を未来へ継承する豊かな自然環境のなかで、「求められるお茶、選ばれのお茶づくり」を進めています。



南山城村

宇治茶のふるさと 京都・南山城村

南山城村は、宇治茶の生産地として古くから「煎茶」栽培を続けており、茶生産量は京都府内の27%(2位)を占めています。

お茶栽培に適した気候と土壌に恵まれた南山城村では、この地域特有の香り高い煎茶やかぶせ茶などを生産しており、全国や関西の茶品評会では普通煎茶の部で農林水産大臣賞を受賞、また、京都府茶品評会では産地賞を13回連続で受賞しているなど、良質なお茶づくりに自信と誇りがあります。



お茶に関わる歴史的な史跡

宇治市

黄檗山萬福寺と駒蹄影園碑

黄檗山萬福寺の境内には、煎茶の祖・高遊外売茶翁を祀る売茶堂があります。毎年、煎茶道大会が催され、煎茶道家元の献茶の儀が行われています。

また、萬福寺の門前には、明恵上人が宇治に茶栽培を伝えたエピソードをものがたる歌碑があり、宇治茶の発祥を伝えています。「とが山の尾上の茶の木分植て あとそ生べし駒の蹄影」 要拝観料



平等院表参道 (かおり風景百選の道)

平等院の表門に続く約160mの商店街には多くの茶店が軒を連ね、茶を焙じる香ばしい香りが街角に漂っています。



玉露製茶発祥之碑

宇治小倉の木下吉左衛門の製茶場において碾茶製造の様子を見ていた山本嘉兵衛が蒸された葉をかき回したところ、飴のような粘液がでて丸く団子になったところから『新製 玉の露』と名付けられました。その後、小倉の江口茂十郎により「玉露」が完成しました。この逸話を記念して、建立されました。(小倉公民館(巨椋神社隣)入口前)

大山崎町

国宝の茶室「待庵」

千利休が建てた茶室の中で唯一現存する茶室であると言われています。天正10年6月13日の山崎合戦後、大山崎に羽柴秀吉が千利休を呼び寄せ城下に住まわせました。その時に利休屋敷に建てられたのが待庵であろうと考えられています。小間の茶室の原点、最も小さい国宝建造物と言われています。要予約



宇治田原町

茶宗明神社

昭和29年、永谷宗円を茶宗明神として大神宮社に合祀したものです。春と秋の大祭には永谷家関係者も参列します。また、境内の玉垣には東西の名だたる茶業者の名前が連なっています。



永谷宗円生家

「蒸製煎茶製法」を開発・普及させたといわれる永谷宗円や代々の永谷家が暮らした屋敷の跡に、焙炉跡を保存するために建設された家屋です。当初の家屋はもっと大規模なもので、母屋の他に製茶や農作業に必要な作業場や倉庫を備えたものだったようです。敷地は隣接する茶宗明神社横にまで及び、今も一部残る石垣などにその名残をとどめています。

交通/公共交通 近鉄「新田辺」、JR奈良線「宇治」、京阪「宇治」から京阪宇治バスで「工業団地」「緑苑坂」方面行きに乗車、「工業団地口」下車、徒歩約25分
自動車 国道307号から宇治田原郵便局前で湯屋谷地区に入る(生家前まで自動車で行くことができますが、大型車は通行困難。



京田辺市

一休寺

とんちの一休さんのお寺として知られている酬恩庵(通称、一休寺)は、一休禅師が88歳で亡くなるまでの晩年、ここを住まいとしたところ。日本茶道の創始者である村田珠光や能楽の今春禅竹など多くの文化人が訪れています。

交通/近鉄新田辺駅から徒歩25分、JR京田辺駅から徒歩20分
京奈和自動車道「田辺北」から約5分。駐車場あり。(有料)
拝観料/大人500円、子ども250円



八幡市

松花堂庭園・美術館 草庵茶室「松花堂」

江戸時代初期、石清水八幡宮の社僧であった松花堂昭乗が建てた茶室で、松花堂庭園内にあります。「寛永の三筆」の一人にも称せられ、当時を代表する文化人であった昭乗は、書・画・茶の湯・和歌に優れた才能を発揮し、数多くの芸術作品を遺しています。

ミュージアムショップ「おみなえし」にて、地元産の抹茶や緑茶を販売しております。
交通/京阪電車「八幡市駅」または「樟葉駅」からバス約15分、「大芝・松花堂前」停留所下車すぐ



泰勝寺

松花堂昭乗ゆかりの寺で、昭乗の墓をはじめ、宝物館や茶席などがあります。茶席の「閑雲軒」は日本百席の一つに数えられています。

☎075-981-0056
◎拝観時間 10:00 ~ 15:00(予約要)
◎拝観料 500円



木津川市

山城茶業之碑

山背古道沿いにある山城茶業之碑。山城茶業組合創立120周年を機に、山城茶の歴史を記念し、山城茶問屋ストリートの新たな発展の礎として建立されました。



山城地域の観光資源

向日市

竹の里・長岡京の都 向日市

向日市は、京都府の西南部に位置した、面積は7.67平方キロメートルの、西日本で最も小さい市です。向日市には、かつて西暦794年に平安京に遷都されるまでの10年間、都として栄えた長岡京の中心地跡があり、桓武天皇が政治を司った大極殿をはじめとした史跡が数多く残されています。市の西部には、丘陵が細長く横たわり、その丘陵の竹林からは、多くのたけのこが産出され、乙訓のたけのこととして全国にその名を知られています。

竹の径は、竹の枝を束ねた「竹穂垣」、丸みを帯びた古墳の形を表現した「古墳垣」、かぐや姫の十二単衣の襟元をイメージした「かぐや垣」など、7種類の竹垣が整然と連なる全長約1.8kmにおよぶ、散歩など竹林浴の地として親しまれる竹林道です。毎年10月に行われる「竹の径・かぐやの夕べ」では、水ろうそくを浮かべた約4,000本の竹行灯を使って「竹の径」を照らします。



向日神社

社伝によると奈良時代・養老2年(718)の創建と伝えられるほか、『延喜式』(927成立)の神名帳に「向神社」として記載されています。本殿は、応永25年(1418)に建造されたものであり、室町時代に築造された三間社流造の本殿が国の重要文化財に指定されているほか、同神社所有の「紙本墨書『日本書紀』神代紀下巻』についても重要文化財に指定されています。

大山崎町

天下分け目の天王山の町「大山崎町」

今から430年前の1582年6月13日夕刻、天王山の麓で明智光秀軍、羽柴秀吉軍の総勢5万人の軍勢が戦った「天下分け目の山崎合戦」が勃発しました。戦いは軍勢に勝る羽柴軍の圧倒的勝利に終わります。勝った秀吉は天王山頂上付近に山崎城を築城し、大山崎は城下町になりました。秀吉はまさにここ大山崎から天下取りを進めていくことになったのです。大山崎町は歴史の宝庫、古戦場のほかにも国宝の茶室「待庵」や昭和の名建築であるアサヒビール大山崎山荘美術館等の観光スポットがコンパクトにまとまり1日かけて歴史散歩を楽しんでいただけます。



宝積寺・閻魔王坐像と眷族像

宝積寺は寺伝によると奈良時代に聖武天皇の勅願により高僧行基が開山した古刹です。当山に安置される閻魔王像と眷族は鎌倉時代前期の作で国の重要文化財に指定されています。我が国に数ある同種の像の中で最も立派なものです。見る者を圧倒する迫力を持ち、地獄の裁判官としての風格十分です。閻魔の前に立つとまるで裁かれているような気になります。大山崎町にお越しの際には是非とも一見をお勧めします。

城陽市

青谷梅林

青谷梅林の起源については明らかではありませんが、鎌倉末期ごろにはすでに梅林があったと言われています。現在、およそ20haの面積に梅樹が植えられており、城州白を中心に毎年6月から7月にかけて収穫されます。また、毎年2月～3月にかけて、青谷梅林では「梅まつり」の多彩な行事が繰り広げられています。



城陽市総合運動公園

運動公園にはスポーツゾーンとレクリエーションゾーンがあります。レクリエーションゾーンでは大芝生広場、ローラースライダーや、レストランがあり、子供から大人まで気軽に楽しめる憩いのスペースです。スポーツゾーンでは、体育館、野球場、テニスコート、多目的広場が備わっていますので、スポーツを満喫できること間違いなしです。12月には城陽市最大のイベント「光のページェント～TWINKLE JOYO～」が開催されます。



京田辺市

観音寺

天武天皇の勅願で義淵僧正によって開基されました。ご本尊は、国宝に指定されている十一面観音立像で、木心乾漆像の貴重なもの。その表情は若々しい健康美にあふれ、お姿からは天平時代の華やかさをうかがうことができます。春になると参道は菜の花と桜できれいな景色が広がります。拝観料：400円



宇治市

千年の時を越えて流れる宇治川を中心とした美しい景観と、世界遺産の「宇治上神社」「平等院」をはじめとする豊かな歴史・文化資源に恵まれた宇治は、ある時は戦乱の舞台として、また別の時代には文化の中心として、常に日本の歴史とともに歩んできました。

市内に点在する古跡は、それぞれの時代の息吹を今に伝え、まるでタイムスリップのように人々を過去に誘い、歴史と文化を体験させてくれます。



市営茶室「対鳳庵」

宇治茶の振興と茶道の普及を目的に建てられた本格的な茶室で、平等院の鳳凰堂に相對していることから、「対鳳庵」と名付けられました。本場の宇治茶に季節のお菓子を添えてお点前をしています。初めての方でもお気軽にどうぞ。一客500円(季節のお菓子)

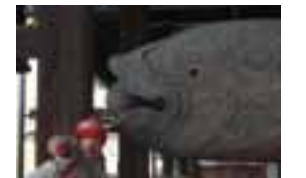
交通：JR奈良線、京阪宇治線「宇治」駅下車 徒歩10分



宇治橋と紫式部像



宇治川の鶴飼



萬福寺の開版

木津川市

木津川市は京都府の最南端に位置しています。かつて、聖武天皇により恭仁京が置かれ、日本の首都となりました。その後、京都と奈良を結ぶ中間に位置していることから、優れた文化を受け入れ、浄瑠璃寺や石仏など、多くの文化財が残されています。近年では、関西文化学術研究都市の中核都市として、国際的、創造的な文化学術・研究の重要な役割を担っています。

当尾の里

木津川市には、まちのいたるところに歴史遺産が残されています。代表的な観光地として、当尾の里は、多くの国指定文化財を有する浄瑠璃寺、あじさい寺として有名な岩船寺、豊かな自然の中にたたずむ野仏などが有り、多くの観光客が訪れています。また、浄瑠璃寺と岩船寺を結ぶ石仏散策道には当尾名物の吊り店で地元新鮮野菜などの買い物も楽しみです。

交通：JR加茂駅よりコミュニティバス 岩船寺まで16分

井手町

京都と奈良をむすぶ、井手の里。

井手町は、京都府の南部地域綴喜郡の中央に位置し、緑豊かな里山に源を発する玉川と、南谷川には、源氏ボタルが舞う清流が木津川へと至る自然豊かな環境に恵まれた町です。奈良時代の昔から古典文学の題材として有名なまちです。さまざまな人がふみ分けてできた山背古道は過去から現在までの歴史の面影を残しつつ新しい出会いがあります。また、井手の里を愛した左大臣橘諸兄は日本六玉川の一つ、玉川の堤に美しい山吹を植えました。玉川の桜・地藏禅院のしだれ桜の見ごろが過ぎる頃、その山吹もまた咲き乱れます。



このように古と未来が交差する自然の美しいまち、それが井手町です。



井手町まちづくりセンター 椿坂

里山の景観が広がる山背古道沿いの棚田に建ち、昔の農家をイメージし囲炉裏やかまどを備えた交流棟や陶芸など作業ができる活動棟があり、休憩場所としての利用もできます。建物周辺は、椿坂や石橋瓦窯跡などの歴史資源に恵まれた場所でもあります。交通：JR奈良線 玉水駅下車 徒歩20分

久御山町

人輝き 心和らぐ 躍動のまち 久御山

久御山町は京都府の南部に位置し、巨椋池と言われた大きな池を干拓したのどかな田園風景が広がっています。宇治川や木津川の河川敷等には様々な草花が咲き、四季折々の表情を見せる一方で、恵まれた立地を背景に多くの企業が進出し活発な産業活動が行われています。また、「人輝き 心和らぐ 躍動のまち 久御山」を将来像に掲げ、人・環境・協働の視点に立ったまちづくりに取り組んでいます。



まちの駅 クロスピアくみやま

まちの駅「クロスピアくみやま」は、活力ある産業のまちとして、まちづくりを進める拠点、産業のシンボル施設です。1階では、「バス待合コーナー」と「販売コーナー」を設置し、特産品等の販売を行っており、1階と2階にまたがった「展示コーナー」では、企業等による製品などの展示を行っています。当施設は屋上緑化やLED照明(一部)を採用し、駐車場には電気自動車用急速充電器も設置している環境面に配慮した施設です。交通：近鉄大久保・京阪中書島からバス→「まちの駅イオン久御山店前」バス停下車すぐ

八幡市

ほのぼの わくわく やすらぎのまち やわた

八幡市は、大阪と京都の中間、木津川・宇治川・桂川の三川が合流して淀川となる地点に位置しています。面積は24.37平方キロメートル、人口約7万4千人。古来より京都・大阪・奈良の交通の要衝として栄え、日本三大八幡宮の一つで国史跡の石清水八幡宮、松花堂弁当で有名な松花堂、時代劇の撮影に使われる流れ橋等の多くの史跡・文化遺産や、男山、淀川河川公園背割堤地区といった自然に恵まれています。

飛行神社

航空界のパイオニア・二宮忠八は飛行機の開発に尽力した人物で、日本人初のゴム動力による「カラス型飛行器」の飛行に成功し、さらにライト兄弟に先駆けて人が乗れる「玉虫型飛行器」を設計しました。飛行神社は、忠八が航空安全と航空事業の発展を祈願し、大正4年(1915年)に創建されたものです。現在の社殿、拝殿、資料館は平成元年(1989年)に忠八の飛行原理発見100周年を記念して建て替えられたものです。
交通：京阪電車「八幡市駅」から南へ徒歩4分



やわた流れ橋交流プラザ「四季彩館」

時代劇の撮影でも有名な、日本最長クラスの本造橋「流れ橋」近くの都市農村交流施設です。地元の野菜を使ったレストランや、ゆっくりくつろげる「四季の湯」などがあります。また、地元のお茶や農産加工品の販売、NPO法人「京・流れ橋食彩の会」による、そば打ち・パン作り等の体験教室も開催しています。
交通：京阪電車「八幡市駅」からバス約15分、「上津屋」停留所下車すぐ



石清水八幡宮

貞観元年(859年)に勧請、翌2年に創建された応神天皇・神功皇后・比咩大神をまつる全国屈指の神社です。徳川家光の造営による現社殿は国の重要文化財に、境内は国の史跡に指定されています。本殿のみずがきや迴廊・幣殿は彩色をほどこした動植物の見事な彫刻で飾られています。また、男山山頂は桜や紅葉が美しく、展望台から天王山や三川合流地が見渡せます。
交通：京阪電車「八幡市駅」から南へ徒歩20分、男山ケーブル「男山山上駅」下車徒歩5分
9月15日/石清水祭、2月節分前の日曜日/鬼やらい神事、5月4日/石清水灯籠華



正法寺

寺は建久2年(1191年)に、清水(元静岡県清水市)の高田藏人忠国が源頼朝の幣礼使としてこの地に居住し、新清水と称したことに始まります。慶長年中(1596~1610年)には、宗清の娘亀女(号=相応院)が徳川家康の側室となり、尾張藩主徳川義直を産み、同藩の庇護を受けました。現在の建物は、寛永7年(1630年)に再建された本堂・方丈・唐門・鐘楼など七堂伽藍を備えています。
交通：京阪電車「八幡市駅」からバス約10分、「走上り」停留所下車南へ徒歩5分



神應寺

石清水八幡宮を勧請した行教が貞観2年(860年)に創建しました。国の重要文化財の行教律師坐像をはじめ、徳川家康から慶喜までの尊牌、豊臣秀吉の衣冠束帯等の像が安置してあります。書院は伏見桃山城の遺構で襖や杉戸には狩野派の「竹に虎、御所車」などの画があります。また、大阪淀屋橋の名で有名な江戸初期の豪商淀屋辰五郎や江戸中期の画家長沢蘆雪らの墓があります。
交通：京阪電車「八幡市駅」から南へ徒歩3分



笠置町

美しい自然がはぐくむまち 笠置町

木津川が東西に流れ、過去には奈良の都に至る交通の要所として栄えた笠置町は、美しい自然と歴史とロマンを素朴に漂わせる静かな史跡と景勝の里です。
春には桜、夏には木津川の清流、秋には紅葉を求めて、各地から多くの観光客が訪れます。

木津川河川敷ではキャンプのテントが色鮮やかに張られ、陽ざしにキラキラ輝く川面にカヌーがすべります。



笠置山(笠置寺行場めぐり)



笠置山上は古くから行場として栄えました。日本最古最大の天人彫刻像と伝えられる笠置寺本尊の弥勒大磨崖佛をはじめ、巨石が連立する名勝巡り(徒歩約30分)を体験できます。
交通：京奈和道木津ICから国道163号線を経由して約30分
JR笠置駅から徒歩約45分

宇治田原町

猿丸神社

禪定寺峠のかたわら、本町と津市曾東町との境界に鎮座し、祭神は、猿丸大夫です。猿丸大夫は三十六歌仙の一人として知られていますが、『古今和歌集』に詠み人知らずとして「奥山に紅葉ふみわけ鳴く鹿の声きく時ぞ秋はかなしき」として詠まれた歌が猿丸大夫の作といわれています。この神は瘤(こぶ)などのできものに靈験があり、京阪神をはじめ各地から、たくさん参詣者があります。大祭は春秋2回、4月13日と9月13日で、毎月の13日を月の祭日としています。また、6月と12月の13日には「火焚き祭」が行われます。境内前の駐車場では毎月の例祭日に地元の特産品を販売する「猿丸市」が開かれ、大勢の人で賑わいます。境内は近年、寄付によってモミジが植栽され、「奥山に〜」の歌にふさわしい紅葉の名所として11月には美しく彩られます。

交通：近鉄「新田辺」、JR奈良線「宇治」、京阪「宇治」から京阪宇治バスで「雑中前行き」「緑苑坂行き」「工業団地行き」に乗り、「雑中前」又は「岩山」下車、徒歩約40分
毎月13日の猿丸神社月次祭の日は「雑中前」から運行される「猿丸神社行き」の臨時便に乗り換え「猿丸神社」下車



長岡京市

竹の里歴史と自然のまち 長岡京

タケノコの名産地として知られ、京都・大阪の二大都市を結ぶ地でもある長岡京市。古くは784年に市名の由来となった都「長岡京」として栄え、戦国時代には数奇な運命をたどった明智光秀の娘「玉」(後の細川ガラシャ)がこの地で幸せな新婚生活を送りました。現在は豊かな自然や歴史資源、先端産業が共存するまちとして発展を続けています。長岡天満宮のキリシマツツジや光明寺の紅葉など、四季を肌で感じることができ、一年を通じてお楽しみいただけます。



明智光秀の娘「玉」は、勝龍寺城主・細川藤孝の長男、忠興のもとに嫁ぎ、幸福な新婚時代を過ごしたと伝えられています。その史実に因み、細川ガラシャの「愛と感動の物語」をテーマとした市民まつり「長岡京ガラシャ祭」を毎年11月に催しています。行列巡行は歴史絵巻さながらの美しさです。

乙訓寺

推古天皇の勅願により聖徳太子が創建したと伝えられる、乙訓地域に現存する最古の寺院です。延暦4(785)年、桓武天皇の夷弟の早良親王がこの寺に幽閉され、弘仁2(811)年には空海(弘法大師)が別当(統括管理の僧官)に任じられました。翌年、空海と最澄(伝教大師)がこの地で初めて対面し、密教について法論を交わしたと記録されています。現在はボタン寺として有名で、毎年4月下旬から5月上旬にかけて、約2,000株のボタンが大輪の花を咲かせます。



長岡天満宮

菅原道真公が太宰府に左遷される時に名残を惜んだ地として知られています。広大な境内の東側には八条ヶ池が広がり、参道と池にかかる水上橋による「八条ヶ池ふれあい回遊のみち」は四季を通じた景勝地となっています。また、参道には樹齢約150年のキリシマツツジ(市指定天然記念物)が群生し、四月下旬には濃紅色の花が咲き誇ります。



光明寺

西山浄土宗総本山。建久9(1198)年、法然上人の弟子熊谷次郎直実(蓮生法師)が開基したといわれています。緑豊かな西山の麓に広がる境内は、四季折々の豊かな自然に囲まれており、11月中旬から12月上旬には参道両側のもみじが鮮やかに紅葉し、訪れる人々を楽しませます。



柳谷観音(楊谷寺)

京都清水寺の開祖延鎮が大同元(806)年に創立。境内には空海(弘法大師)の法力による霊水「独鈷水(おこうずい)」があり、眼病に効くことで知られています。また、毎月17日には縁日が行われ、各地から参拝者が集まります。境内から奥の院にいたる参道には府指定の名勝「あじさいのみち」が整備され、6月下旬から7月上旬にかけて27種約4,500株のあじさいが山間を彩ります。



勝竜寺城公園

暦応2(1339)年に細川頼春が築城したとされる勝龍寺城。明智光秀の娘・玉(のちの細川ガラシャ)が、城主・細川藤孝の長男、忠興のもとに嫁入してきた地として有名です。後年の山崎の合戦では、光秀がここに本陣を構えました。平成4年、長岡京市の市制施行20周年記念事業として、勝龍寺城の跡地が都市公園として再建されました。当時の面影を残した美しい庭園は、絶好の憩いの場となっています。



和束町

天空カフェ

標高165mの山頂に位置し、和束町の自慢の風景が一望できる。府内産の木材を使用し、京都高台寺のからかさ亭をモチーフに作られた茶室。平成24年4月オープン
交通：JR加茂駅→奈良交通和束小杉行き山の家前降車→徒歩10分



安積親王陵墓

安積親王は聖武天皇の第五皇子で744年に17歳で死去。平城京・恭仁京と紫香楽宮とを結ぶ街道を愛した皇子のために、この地を陵墓として葬られたと伝わる。別名「太鼓山」とも呼ばれ、茶畑に囲まれた陵墓から眺める風景も絶景である。
交通：JR加茂駅→奈良交通和束小杉行き山の家前降車→徒歩10分



弥勒磨崖仏

和束川を覗き込むように、川の右岸の巨石(御影石)に彫られた立像がある。正安2年(1,300年)4月の銘が彫られている。
交通：JR加茂駅→奈良交通和束小杉行き和束長井降車→徒歩10分

南山城村

緑と水に育まれた京都府唯一の「村」

南山城村は京都府の東南端に位置し、奈良県・滋賀県・三重県に隣接している府内唯一の「村」です。村の周りを囲む緑豊かな山々と、村の中央を静かに流れる木津川が、風光明媚な景勝地を生み出しています。

先人の弛まぬ努力によって守られてきた村の豊かな自然は、日本の原風景を現存させ、また、村人の温かさに繋がっています。村を訪れるだけでも、懐かしさと癒しを感じることでしょう。



不動の滝

深山溪谷の美しい清流にある落差20mの滝です。滝の中ほどの岩盤には不動明王が掘られており、古き時代には修行の場でもあったようです。真夏でも背筋がピンと伸びる清々しさがあり、自然の造形美と猛々しさに圧倒されます。
場所：南山城村童仙房
交通：JR大河原駅より車で約30分

田山花踊り

毎年11月3日(文化の日)に、雨乞いの神事として田山の氏神・諏訪神社に奉納される「田山花踊り」。鮮やかな衣装を身にまとい、歌や太鼓のリズムにのってしなやかに、時に力強く踊るさまは多くの人々を魅了しています。(京都府指定無形民俗文化財)
場所：南山城村田山堂山
交通：JR月ヶ瀬駅より車で10分



田山生涯学習センター(旧田山小学校)

2003年春に128年の歴史に幕を閉じた旧田山小学校は「田山生涯学習センター」として生まれ変わり、卒業生たちによるそば教室や都市部で活躍しているクラフト作家の工房、都市民経営のオシャレな廃校カフェなどがある都市農村交流施設です。
場所：南山城村田山中シヨジ14
交通：JR月ヶ瀬駅より車で10分



童仙房高原のブルーベリー狩り

南山城村の野殿・童仙房地区は、標高600mの山の上に位置しており、冷涼な気候を活かしたブルーベリー狩りが体験できます。いつの間にか口コミで広まり、8月～10月の収穫時期には、家族連れや団体など多くの方で賑わいます。
場所：南山城村野殿、童仙房
交通：JR大河原駅より車で約30分



精華町

「人、自然、科学を結ぶ 学研都市精華町」

京都府の南西端、近畿圏のほぼ中心地に位置する精華町は、一年を通して温暖な気候に恵まれ、西部の丘陵地には研究所などの産業施設や新市街地が形成され、東部には平坦な農地が広がり、どの場所からでも里山を望むことのできる緑豊かなまちです。本町を長く育んできた豊かな自然を大切に継承しつつ、関西文化学術研究都市の中心地にふさわしいまちとして、自然と都市との共生を目指して創造的なまちづくりを展開しています。



けいはんな記念公園

人の心に安らぎを与えてくれるよう、自然との調和をテーマにした公園です。園内は広大な芝生広場や小川の流れる谷あい、日本庭園(水景園)に分かれています。四季折々の草花が楽しめるほか、水景園ではコンサートや自然体験などのイベントも開催しています。
交通：近鉄新祝園駅・JR祝園駅より奈良交通バスで8分

華やぎ観光農園

華やぎ観光農園は家族みんなが楽しめる収穫体験農園です。
華やぎ観光農園のイチゴ狩りは高設栽培なので、腰をかがめることなく、妊婦さんや高齢の方も安心です。また、整地されているので、ベビーカーや車椅子での入場も可能です。他にも、夏はスイカ、秋は黒大豆枝豆やサツマイモの収穫体験を楽しめます。株を購入して育てるオーナー制もあり、自ら育てた作物を味わう喜びは格別です。
お問い合わせ 0774-93-4811 ホームページ <http://hanayagifarm.com/>



川西観光苺園

毎年春にオープンし、約3か月間新鮮なイチゴの食べ放題を楽しめます。園内には、レストハウスの設備があり、バーベキューなども楽しめます。
(完全予約制)
交通：近鉄新祝園駅・JR祝園駅より徒歩約15分
開園期間：2月下旬～5月下旬
ホームページ：
<http://www16.atpages.jp/kawanisiichigoen/>
開園期間中のお問い合わせ：0774-94-5230

宇治茶カフェ認定店

山城地域の行政、茶関係団体でつくる宇治茶の郷づくり協議会では、おいしい宇治茶のメニューが揃い、宇治茶の歴史、文化、淹れ方等の説明ができる喫茶店などを「宇治茶カフェ」として認定し、広く京都府民や京都府を訪れる観光客に宇治茶をPRし、「お茶する生活」の普及拡大と観光資源としての活用をすすめています。



山城地域の宇治茶カフェ(認定順)



いとうきゆうえもんほんてん さぼう
伊藤久右衛門本店・茶房
京都府宇治市菟道荒模 19-3
10:00～18:30
(茶房 L.O.18:00)
☎無休 ☎0774-23-3955
<http://www.itohkyuemon.co.jp/>



お茶のかんばやし 喫茶かんばやし
京都府宇治市宇治妙楽 43
9:00～18:00
☎年中無休 ☎0774-22-2514
<http://www.otya.co.jp/>



マイコ
MAIKO 茶ブティック
京都府京田辺市田辺中央 5-1-7
10:00～19:00
(シーズンにより変更有)
☎火曜日 ☎0774-68-2472
<http://www.maiko.ne.jp/boutique.htm>



なかむらとう きちほんてん
中村藤吉本店
京都府宇治市宇治赤番 10
11:00～18:00
(季節により変わります)
☎年中無休 ☎0774-22-7800
<http://www.tokichi.jp/>



うじちや どうじょうたくみ やかた
宇治茶道場 匠の館
京都府宇治市宇治又振 17-1
11:00～17:00 (L.O.16:30)
☎水曜日 ☎0774-23-0888
<http://www.ujicha.or.jp/>



ちやてい ふうあん
茶亭 楓庵
京都府長岡京市長岡 1丁目 2-18
10:00～18:00
☎月・第1日曜日
☎075-951-6798
<http://www.ふうあん.com/>



ふくじゆえん うじちやこうぼう
福寿園 宇治茶工房
京都府宇治市宇治山田 10
10:00～17:00
☎月曜日 (祝日の場合は翌火曜日)
☎0774-20-1100
<http://www.ujikoubou.com/>



ふくじゆえん うじちやかしこうぼう
福寿園 宇治茶菓子工房
京都府宇治市宇治蓮華 35
10:00～17:00
☎月曜日 (祝日の場合は翌火曜日)
☎0774-28-6810
<http://www.ujikoubou.com/>



ふくじゆえん けんきゆう
福寿園 CHA 研究センター
京都府木津川市相楽台 3-1-3
10:00～16:00
☎土・日・祝日 ☎0774-73-1200
<http://www.fukujuen.com/>



きよと うじちや さた
JA 京都やましろ 宇治茶の郷
京都府綴喜郡宇治田原町
大字郷之口小字中林 12
9:30～16:30
☎年中無休 (年末・年始を除く)
☎0774-88-2629
<http://www.ja-yamasiro.com/>



なかおえんちや さぼうたけこ
中尾園茶舗 茶房 竹の子
京都府相楽郡和束町
大字園小字大塚 3
8:30～17:00
☎年中無休 ☎0774-78-3630
http://www.nakaoen.com/sabou_takenoko.html



ちやほ あかもんちや
茶舗 赤門茶屋
京都府宇治市宇治蓮華 21
(平等院正門前)
10:00～17:00
☎木曜定休、水曜不定休
☎0774-21-2058
<http://www.akamon-chaya.com/>

山城地域の農産物

春

- いちご
- 小松菜
- バラ
- たけのこ
- 花菜
- うめ

夏

- きゅうり
- ブルーベリー
- トマト
- いちじく
- なす
- 伏見とうがらし

秋

- 懸がい菊
- 柿
- しいたけ
- なし
- みかん
- さつまいも

冬

- みず菜
- えびいも
- 九条ねぎ
- ポインセチア
- ほうれん草
- 聖護院だいこん

向日市	たけのこ、なす、ポインセチア、懸がい菊、ほうれん草
長岡京市	たけのこ、なす、花菜
大山崎町	たけのこ、なす、山科なす、バラ
宇治市	ブロッコリー、伏見とうがらし、みず菜
城陽市	うめ、いちじく、さつまいも、聖護院だいこん、九条ねぎ、みず菜
久御山町	トマト、なす、みず菜、九条ねぎ、淀大根（聖護院だいこん）、ほうれん草、小松菜
八幡市	たけのこ、きゅうり、トマト、なす、なし、ほうれん草、九条ねぎ、小松菜
京田辺市	田辺なす、えびいも、たけのこ
井手町	花菜、柿、みかん
宇治田原町	きゅうり、古老柿、みず菜、原木しいたけ
木津川市	なす、きゅうり、いちじく、柿、九条ねぎ、みず菜
笠置町	花菜、青とうがらし
和束町	トマト、花菜
精華町	青とうがらし、みず菜、えびいも、いちご、花菜
南山城村	トマト、ブルーベリー、原木しいたけ



農産物直売所

新鮮な地元産野菜を、近隣の農家の方が持ち寄って販売している農産物直売所。

山城地域にある直売所の中でも、地元産のお茶を販売している直売所をご紹介します。

五里五里市 (JA京都やましろ農産物直売所城陽店)

城陽市富野北垣内 56
9時30分～16時
年中無休(年末・年始を除く)
☎0774-53-0072



城陽旬菜市直売所

城陽市寺田島垣内 73-6
8時45分～16時
月曜
☎0774-52-0382



普賢寺ふれあいの駅

京田辺市普賢寺小田垣内 62
8時～15時
月曜・金曜
☎0774-62-4250
<http://www.csd-net.co.jp/eki/index.html>



なごやか市 (JA京都やましろ農産物直売所井手町店)

井手町大字多賀小字東松ヶ花 56-1
9時～15時30分
年中無休(年末・年始を除く)
☎0774-82-2046



宇治茶の郷 (JA京都やましろ農産物直売所田原店)

宇治田原町大字郷之口小字中林 12
9時30分～16時30分
年中無休(年末・年始を除く)
☎0774-88-2629



花野果市 (JA京都やましろ農産物直売所木津店)

木津川市木津八色 18-7
9時30分～16時30分
年中無休(年末・年始を除く)
☎0774-72-0080



和束茶カフェ

和束町大字白栖小字大狭間 35
10時～15時
年中無休(年末・年始を除く)
☎0774-78-4180
<http://www.wazuka-chagenkyo.jp/>



中尾園茶舗

和束町大字原山小字大塚 3
8時～18時
年中無休(年末・年始を除く)
☎0774-78-3630
<http://www.nakaoen.com>



グリーンマーケット精華 (JA京都やましろ農産物直売所精華店)

精華町祝園西 1-31-5
9時30分～17時
年中無休(年末・年始を除く)
☎0774-94-5698



愛菜館 (JA京都やましろ農産物直売所山田荘店)

精華町乾谷金堀 3-2
9時30分～17時
年中無休(年末・年始を除く)
☎0774-72-5459



南山城村農林産物直売所

南山城村大字北大河原小字久保 1-3
夏期(4月1日～9月30日)
8時30分～17時
冬期(10月1日～3月31日)
9時～16時
月曜(※月曜が祝日の場合は営業)
☎0743-93-1000



◆市町村・市町村観光協会等のお問い合わせ先

観光担当部課名	電話番号	所在地
向日市建設産業部産業振興課	075-931-1111	〒617-8665 向日市寺戸町中野20番地
長岡京市環境経済部商工観光課	075-955-9515	〒617-8501 長岡京市開田1丁目1番1号
大山崎町経済環境課経済観光係	075-956-2101	〒618-8501 大山崎町字円明寺小字夏目3
宇治市商工観光課	0774-20-8724	〒611-8501 宇治市宇治琵琶33
城陽市市民経済環境部商工観光課	0774-56-4019	〒610-0195 城陽市寺田東ノ口16番地、17番地
八幡市環境経済部商工観光課	075-983-1111	〒614-8501 八幡市八幡園内75
京田辺市経済環境部産業振興課	0774-64-1319	〒610-0393 京田辺市田辺80
木津川市生活環境部観光商工課	0774-75-1216	〒619-0286 木津川市木津南垣外110-9
久御山町産業課	075-631-9964	〒613-8585 久世郡久御山町島田ミスノ38番地
井手町産業環境課	0774-82-6168	〒610-0302 綴喜郡井手町井手南玉水67番地
宇治田原町産業振興課	0774-88-6638	〒610-0289 綴喜郡宇治田原町荒木西出10
笠置町企画観光課	0743-95-2301	〒619-1303 相楽郡笠置町大字笠置小字西通90-1
和束町農村振興課	0774-78-3001	〒619-1295 相楽郡和束町大字釜塚小字生水14-2
精華町事業部産業振興課	0774-95-1903	〒619-0285 精華町大字南福八妻小字北尻70番地
南山城村産業生活課	0743-93-0105	〒619-1411 相楽郡南山城村大字北大河原小字久保14-1

観光担当部課名	電話番号	所在地
向日市観光協会	075-931-1111	〒617-8665 向日市寺戸町中野20番地 向日市産業振興課内
長岡京市観光協会(長岡京市観光案内所)	075-951-4500	〒617-0824 長岡京市天神1丁目1番2号
長岡京市観光情報センター	075-958-4222	〒617-0833 長岡京市神足2丁目3番1号 長岡京市立総合交流センター2階
(社)宇治市観光協会	0774-23-3334	〒611-0021 宇治市宇治塔川2
JR宇治駅前観光案内所	0774-22-8783	JR宇治駅前
近鉄大久保駅前観光案内所	0774-46-2171	近鉄大久保駅構内
城陽市観光協会(観光案内所「五里五里の里」)	0774-56-4029	〒610-0121 城陽市寺田北山田27-7(JR城陽駅前)
八幡市観光協会(八幡市観光案内所)	075-981-1141	〒614-8005 八幡市八幡高坊8-7(京阪八幡市駅前)
京田辺市観光協会	0774-64-1319	〒610-0393 京田辺市田辺80 京田辺市産業振興課内
京田辺市観光案内所	0774-68-2810	〒610-0334 京田辺市田辺中央4丁目3-3 京田辺市商工会館内
(一社)木津川市観光協会	0774-73-8191	〒619-0216 木津川市州見台1-1-1 ガーデンモール木津川2F
笠置町観光協会	0743-95-2159	〒619-1303 京都府相楽郡笠置町笠置佃3-1

山城地域へのアクセス

